

平成30年6月3日  
今週のベストショット



青松園A 三苦ホーネッツ対ブルーマーリンズ戦

初回、左中間を破るソロHRを放った三苦ホーネッツ四番広木選手のホームイン。

写真: 奈多サンデーズ 宮口 和己

雁レクA 三苦フレンズエース山口選手投打に大活躍！

三苦フレンズ (3勝1敗) 0 5 1 2 0 0 0 8 山口○ー佐藤(由)

奈多フェニックス (1勝2敗) 0 0 0 0 0 0 0 0 太田●ー今林

HR: 山口2 (三苦フ) 2BH: 生野(拓) 生野(猛) (三苦フ) 盗塁: 吉村、山口、寺山(三苦フ)

初回、フレンズは先頭の吉村選手が内野安打で出るも後続が続かず無得点に終わった。その裏、先制点を取りたいフェニックスだったが、フレンズ先発山口選手に三者凡退に抑えられる。二回、先頭の山口選手がレフトオーバーのHRで先制すると、打線が繋がりこの一回一挙5得点とゲームの流れを引き寄せた。その後も三回、四回と連続で得点し差を広げた。対するフェニックスは六回まで無安打11奪三振と完璧に抑えられていたが、最終回先頭の福島選手がサードへの内野安打で出塁し流れがフェニックスへ傾いたかと思われたが、後続が三振に終わりゲームセット。この試合フレンズ山口選手は、打っては2HR、投げては13奪三振と投打に活躍し、守備から流れを作り、代打で出た選手も出塁するなどフレンズの選手層の厚さを感じた試合だった。

(記事・写真: 三苦三球会 半田 晃大)



三苦フレンズ先発の山口投手



奈多フェニックス先発の太田投手。



二打席連続 HR の山口選手を笑顔で迎えるフレンズベンチ。



七回表、無死からフェニックス本日初安打！



完全試合を阻む安打を放ったフェニックス福島選手。



投打に大活躍の山口選手(左)、フレンズの指揮をとる亀井監督(中)、今シーズン初盗塁でチャンスを広げた寺山選手(右)

### 青松園A ホームラン3発を含む11得点

三苦ホーネッツ (4勝) 2 0 1 4 1 3 1 1 矢野(義)○ー広木  
 ブルーマーリンズ (4敗) 0 0 1 0 4 0 5 佐藤●ー井上(広)

HR : 広木、矢野(義)、堺(恭)(三苦ホ) 児玉(ブルー) 2BH : 堺(徹)、堺(恭)(三苦)、末松(ブルー)

盗塁 : 井手2、矢野(義)(三苦ホ)

一回表ホーネッツは、二番井出選手がヒットで出塁し、盗塁、内野ゴロの間に三塁まで進むとワイルドピッチで1点先制。四番広木選手のHRで1点追加する。三回表ホーネッツはノーヒットで1点追加すると、ブルーマーリンズはその裏児玉選手と末松選手の連打で1点を返す。ホーネッツは四回に矢野(義)選手のHRなどで4点、五回には塚(恭)選手のホームランで1点を追加する。追いつきたいブルーマーリンズは五回に連打とエラーで1点を返すと、一番児玉選手が3ランHRを放ち3点差まで詰め寄るも、次の回に3点を追加され追いつけなかった。(記事、写真:奈多サンデーズ 宮口 和己)



三苦ホーネッツ先発矢野投手。



ブルーマーリンズ先発佐藤選手。



華麗にタッチを回避するホーネッツ広木選手。



ホームランを放ちベンチに迎えられる塚(恭)選手。



余裕のホームインのブルーマーリンズ児玉選手。



見事な連携でホームタッチアウト。

## 雁レク7 シーズーゲームの行方は…

和白新町パイレーツ（2勝1敗）20002 4 吉田○ー大濱  
塩浜ジャガーズ （2敗）10020 3 立石、久保田●ー橋村

2BH：荒木（塩浜ジ）

和白新町パイレーツは一回表、先頭の一岡山選手が内野安打で出塁すると塩浜ジャガーズ先発立石投手の制球難による暴投で進塁し本塁まで生還する。続く二番八坂選手も四球で出塁し、三塁まで進塁すると一死三塁から四番沖田選手の三塁ゴロの間に本塁に。パイレーツが2点を先制する。序盤は制球難に苦しむ立石投手であったが、二回以降は無失点の投球。尻上がりの投球で三回、四回は走者も許さず、だんだんと流れがジャガーズに向いてくる。するとジャガーズは四回裏、二死ながらも二三塁と一打逆転の場面で打者は一番荒木選手。少々詰まった当たりだったが、右前に落ちる適時打となる。2点を奪い見事ジャガーズが逆転を果たす。このまま試合終了といきたいジャガーズであったが、五回から登板した久保田投手も制球難により先頭打者を死球で出塁を許してしまう。二死まではこぎつけたものの四死球で満塁という状況。そしてパイレーツ五番大濱選手の放った打球は一塁線ファールゾーンのリナー。ピンチ脱出かと思われたが、ジャガーズ藤崎一塁手がまさかの落球。集中が切れてしまったか四球を与え同点、次打者には暴投で走者が生還し逆転を許してしまう。その裏、ジャガーズは一死二三塁と一打サヨナラの場면을演出するも後続が倒れ、今季初勝利はおあずけとなった。

（記事・写真：雁の巣ライナース 明瀬 旭）



和白新町パイレーツ先発の吉田投手。



塩浜ジャガーズ先発の立石投手。



四回裏、逆転のきっかけとなる右前安打を放つジャガーズ六番山口選手。



四回裏、一打逆転のピンチに集合するパイレーツ内野陣。



四回裏、ジャガーズ一番荒木選手の逆転となる適時打。



ジャガーズ二番手の久保田投手。



五回裏、ライトフライで試合終了。

### 青松園B 投手戦を制したのは…。

レッドサンデーズ (2勝1敗)	1 0 0 0 0 0 0	1	塚本●-八島
奈多クラブ (2勝1敗)	1 1 0 0 0 0 X	2	今林(瑠)○-安河内

**2BH:** 上野2 (奈多ク)

去年負けなしの奈多クラブ今林(瑠)投手を相手に初回から試合が動く。レッドサンデーズ一番川原(正)選手が四球を選ぶと、二番古賀選手が難なく送りバントを決めスコアリングポジションにランナーを進める。一死後、制球が定まらない今林(瑠)投手は四番八島選手の時に連続WPでレッドに1点を献上。しかし後続を仕留め何とかしのいだ。その裏、追いつきたい奈多クラブは一番今林(祐)選手が四球、後続の今林(賢)選手はセカンドエラーを誘い出塁。続く今林(瑠)選手のライトライナーをライトが落球するもすぐさま二塁送球でアウト。続く四番馬場口選手のショートゴロがフィルダースチョイスで満塁になると、五番上野選手の二遊間ゴロの間に同点に追いつく。二回表レッドは先頭の川原(陸)選手がレフト前ヒットで出塁するも後続が打ち取られチェンジ。その裏奈多クラブは二死から今林(祐)選手がまたもや四球で出塁すると続く今林(賢)選手がセンター前ヒット。その間に今林(祐)選手が激走で三塁を陥れると、三塁手が送球を逸らす間に逆転に成功した。その後、両チームチャンスを作るが今林(瑠)、塚本両投手が踏ん張り1-2で奈多クラブが投手戦を制した。



試合開始風景。



振り切った打球はショートへ 馬場口選手。



同点のピンチも近藤選手を打ち取る今林瑠生投手。

## 第6週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

第6週6月3日は4試合が行われました。

雁レクAの三苦フレンズ対奈多フェニックス戦は、フレンズ山口投手が2HR（勝利打点）、被安打1、13奪三振の完封勝利と大活躍。12安打と打ちまくったフレンズだが、女房役の佐藤（由）捕手は無安打もご愛嬌。下位打線にもヒットが出るなど8-0でフレンズが勝利。

青松園Aの三苦ホーネッツ対ブルーマーリンズ戦は、ホーネッツ矢野（義）投手が久しぶりの先発。それにこたえるように女房役選手の広木捕手が初回にHRを放つと、四回表には矢野（義）投手が自らHR、五回表には塚（恭）もHR。その親父・塚（厳）選手も二塁打を放つなど11安打で11得点。ブルーマーリンズも6安打を放ち抵抗を試みるも11-5でホーネッツの勝利。ブルーマーリンズ一番児玉選手は3打数2安打1HRと気を吐いた。

雁レク7の和白新町パイレーツ対塩浜ジャガーズ戦は、一進一退のシーソーゲームの様相を呈していたが、3安打ながらパイレーツが五回に相手ミスや四球に乗じて2点を取り逆転すると、一死23塁のピンチを退けて2勝目。新ユニフォームのジャガーズは早く1勝が欲しい。

青松園Bのレッドサンデーズ対奈多クラブ戦は、全勝優勝を狙っていた奈多クラブが前の試合で三球会に敗れ、この試合での対応が注目された。初回奈多クラブ今林瑠生投手が2WPで1点を献上するも、その後はピンチを得意のライズボールで交わすと、レッド二番のバント攻撃にも好フィールディングを見せる。挑戦するレッドは一二回に守備の乱れを突かれ2失点。結局1-2で奈多クラブが投手戦を制し連敗は免れた。

6月に入って、無敗がホーネッツ、ウインズ、三球会の3チームと混戦の様相を呈している。